

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	多機能型事業所 一葉		
○保護者評価実施期間	R8 年 2月 2日		~ R8 年 2月 24日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	11名	(回答者数) 7名
○従業者評価実施期間	R8 年 2月 2日		~ R8 年 2月 24日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5名	(回答者数) 5名
○事業者向け自己評価表作成日	R8 年 2月 26日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)と思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	日常生活の中で出来る療育を行う。	利用児童が使いやすい道具をそろえ、道具を使うことで体の使い方覚え、出来ることを増やしながらか自立の援助を行っている。	利用児童が、選択し決断しているようなツールを作っていく。
2	個別での発達段階をアセスメントし、身体の動きから心と体のバランスを整え、リラックスし学習しやすい体づくりを行う。	過緊張や低緊張の利用児童に対しては、リラックスできる体を作りを行います。そのことで、可動域が広がったり呼吸が深くなります。頑張ることではなく、楽しくチャレンジできる気持ちを育てます。	利用児童の様子を観察し、複数人でのアセスメントを行い、個別での活動を決定していきます。
3	偏食をなくしていく	食べることにに対する不安感や咀嚼や噛み切るなど様々な口腔全体の未熟さなど1ずつ、解決していきます。	多くの種類の野菜の栽培をしながら興味を持ち、調理をしながら食に対する意欲と興味育てていく。

	事業所の弱み(※)と思われること ※事業所の課題や改善が必要と思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域の他のこどもとの活動機会が持てていません。	長期休業日で、年に数回関わることはあるが少ないと感じています。	年間計画に組み込んでいく。
2	事故防止マニュアル・緊急時対応マニュアル・防犯マニュアル・感染症対応マニュアルなどのマニュアルについて保護者の方への説明が不足している。	子育て支援や療育のことについてお話することが多く、面談の場面でも周知することを意識していなかった。	定期面談の時間を改めて設けていくことで、周知できるように取り組んでいく。
3	保護者間の繋がりがあまりない。	勉強会を毎月、平日の午前中に開いていますが、平日なのもありお仕事物理的に参加できない保護者の方が多い。	保護者間で繋がりが持てることで、困りごとや悩みの相談しあう関係づくりが出来るために、子供たちと一緒に活動できる機会を作っていく。